
早苗さんの話(東方Project)

みっちゃん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

早苗さんの話（東方Project）

【コード】

N62950

【作者名】

みつちよん

【あらすじ】

たぶん読めば分かります

でも結構適当

(前書き)

人の歴史ってのは本人の記憶だと思うこの頃

すごいモヤモヤした終わり方です

この続きはご自由に考えてくださいな、それではどうぞ

夢を見た

「あつちの世界に居た時の夢・・・もう忘れたはずなのに」

あの時の私は普通の学生でちょっとした異能を持っているだけだった。
でもそれからすぐに力が強くなって、他人から忌み嫌われる存在になつた

「早苗、大丈夫か？随分とうなされていたようだが。辛い事があるなら相談するんだぞ」

「・・・いえ、何でもありませんよ」
(神奈子様には分からない、生まれた時から神様なんだから現人神の私の気持ちなんて)

そう言い黙って立ち上がった早苗を神奈子は心配そうに見ていた

「早苗、あんまし神奈子に心配かけちゃダメだよ」
あの後神奈子はしよげていた

「そうですね、今度から気をつけます」
「いやーそれにしても幻想郷には来ない方が良かったかねー。こんな力もこっちじゃ普通らしいしね。」

その後も諏訪子はあるちの世界の方が良かったただとか話していたがその言葉は早苗の耳には入らなかった

「．．．つふざけたことを言わないで下さいっ！」

「はえ？何か言ったっけ？」

「私がこの力でどれだけ人から虐げられてきたか、諏訪子様は知ってるんですか！」

諏訪子は黙っている、だが早苗は言葉を続けた

「私だって普通に学生生活を楽しんで普通に恋愛をしていたかったです。でもそれすらも許されなかった！」

早苗はボロボロと涙を流しながら呟いていた

「友達だと思ってた人に嫌われる気持ちがあるものですか．．．」

と言い、早苗は走り去って行ってしまった

「．．．神奈子、今の話聞いてた？」

柱の陰から神奈子が出てきて言葉を返した

「．．．ああ、聞いていたよ。まさか早苗があそこまで思い詰めたとはな」

「ねえ神奈子。」

「分かった．．．早苗の為だ」

二人はそう言うところかに飛び去って行った

そして夜になり早苗は守屋神社に帰ってきたがそこには誰も居ない。
あるのは静寂だけだった

「・・・こんな私に愛想尽かしちゃったのかな」

早苗がそう呟いたその刹那

足元に穴が。いや、スキマが開いたのだ

そして早苗はスキマの中に放り出された

「なっ、何ですかいきなり、紫さん！」

「そうね、あの神様二人に頼まれたと言う感じがしら」

「ついでにお前の歴史も消してくれ・・・とな」

そう慧音が言葉を繋げた

「・・・なんで神奈子様と諏訪子がそんなことを・・・っ」

早苗は今にも崩れ落ちそうによろめいている

「今は只己の歴史を無くし眠りに就け」

「そして眠りが覚めればあなたは」

そこで彼女の意識が途切れた。だがそのことを覚えているはずも無い
いであるっ

早苗の目が覚めた時、彼女はベッドの中に居た

「なんかすごい夢見てたな．．．神様とか色々」と

しかしそんな『すごい夢』を見ても学校は始まる

「あつ、遅刻しちゃう。行つてきまーす！」

彼女が望んでいた普通女子高校生の一日は始まっている

「早苗ちゃん、おはよー」

「あ、さんおはよう」

そんな東風谷早苗の姿を空から覗く影が二つ有った

『これが．．．早苗の幸せなんだよね』

『ああ、早苗の生に私達は要らなくなったのさ』

そして二人の神の姿はフツと消えそこには何も残っていなかった

「？」

「どうかしたの？」

「いえ、あそこに何か居たかなって．．．居ませんよね

(後書き)

どうでしょうか、このモヤモヤとした感じ

これから早苗さんがどうなったかはあなたの想像しだいです
もしかしたらまた過ちを繰り返してしまうかもしれないししないか
もしれないし。

まあご自由に続きでも感想にどうぞ
良いのあったら続き書こう)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6295o/>

早苗さんの話(東方Project)

2010年12月18日18時01分発行